

3 活動量評価にかかる試行調査等について

- 多面版SDGsローカル指標を用いた活動量評価について、多面的機能支払交付金の活動を現場で支える行政（市）がどのように評価するか調査した。
- 今回の試行調査は、本交付金のSDGsへの貢献が平均的であり、ある程度の活動規模がある市を対象として選定した。
- 試行調査においては、活動量評価の活用方法等について聞き取るとともに、実績報告から把握できない指標の把握に要する労力等も確認した。
- また、別途補足調査として、活動組織に対して多面版SDGsローカル指標の活用方法等について聞き取るとともに、大学生が本交付金による地域の共同活動がSDGsへ貢献していることを知った際に同活動に関心を持つかどうか等を聞き取った。

試行調査等の概要

試行調査(市)

- ・ 調査対象：X市、Y市
- ・ 調査形式：アンケート調査票を配布
- ・ 調査内容：①多面版SDGsローカル指標や活動量評価（県＋市）の内容を確認頂き、活用方法等についての評価を確認。
②実績報告から把握できない指標の把握に要する労力等を確認。

補足調査(活動組織)

- ・ 調査対象：4組織（両市から各2組織）の代表
- ・ 調査形式：アンケート調査票を配布
- ・ 調査内容：多面版SDGsローカル指標の内容を確認頂き、活用方法等についての評価を確認。

補足調査(大学生)

- ・ 調査対象：大学生（2大学）
- ・ 調査形式：WEBアンケート調査
- ・ 調査内容：地域の共同活動がSDGsへ貢献していることを知った際に共同活動に関心を持つかどうか等を確認。

(1) 試行調査(市)

- 2市に対して試行調査を実施した。(X市、Y市)
- はじめに、多面版SDGsローカル指標がどのようなものか理解していただくため、昨年度に大崎市で実施した試行調査と同様の整理を行った。その際、実績報告(様式2-4)から把握できる指標は予め事務局で記入した上で、実績報告から把握できない指標(例：環境支払や小水力発電に取り組む組織数など)は情報提供頂いた。

図 昨年度同様の試行調査 Y市の事例(一部抜粋)

I・資源と環境	I. 資源と環境 地域資源と農村環境の保全等への貢献				Y市 (活動例)			
	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動
I・資源と環境	6 水質を保全する	【6-3】汚染を減らす、ゴミが捨てられないようにする、有害な化学物質が流れ込むことを最低限にする、処理しないうまみ排水を半分に減らす、世界中で水の安全な再利用を大きく増やすなどの取組によって、水質を改善する。	水質保全(ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。 ◆水質保全(移動の土砂流出対策)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水質保全(その他:水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等)に取り組む組織数(様式2-4) ◆景観形成等、施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組む組織数(様式2-4) ◆本文交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数 ※宇都宮市のR2環境保全支払実績は13組織	(事例)クリーン作戦の取組 該当なし 該当なし 32組織	6 水質を保全する	地域における水質を保全しています。	◆水質保全(移動の土砂流出対策)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水質保全(その他:水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等)に取り組む組織数(様式2-4) ◆景観形成等、施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組む組織数(様式2-4) ◆本文交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数 ※宇都宮市のR2環境保全支払実績は13組織	(事例)クリーン作戦の取組 該当なし 該当なし 32組織
	13 気候変動に順応する	【13-1】気候に関する災害や、自然災害が起きたときに、対応したり立ち直ったりできるような力をすべての国でそなえる。 【13-3】気候変動が起きるスピードを遅くする。気候変動の影響に備えたり、影響を減らすための、早くから警戒するための、教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害に対する強靱性、対応力を強化する。 ◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) (農地維持活動は農地が荒廃しないよう取り組む) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆推進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている組織数(様式2-4)	該当なし 61組織 該当なし 該当なし 該当なし 2組織	13 気候変動に順応する	地域における生物多様性を保全しています。	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) (農地維持活動は農地が荒廃しないよう取り組む) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆推進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている組織数(様式2-4)	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) (農地維持活動は農地が荒廃しないよう取り組む) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆推進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている組織数(様式2-4)
	13 気候変動に順応する	【13-3】気候変動が起きるスピードを遅くする。気候変動の影響に備えたり、影響を減らすための、早くから警戒するための、教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆推進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている組織数(様式2-4)	該当なし 61組織 該当なし 該当なし 該当なし 2組織	13 気候変動に順応する	地域における生物多様性を保全しています。	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) (農地維持活動は農地が荒廃しないよう取り組む) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆推進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている組織数(様式2-4)	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) (農地維持活動は農地が荒廃しないよう取り組む) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆推進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている組織数(様式2-4)
II・社会	II. 社会 農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献				Y市 (活動例)			
	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動
II・社会	3 やすさや福祉の機会を提供する	【3-4】2029年までに、予防や治療をすませ、感染症以外の病気やケガで早く命を失う割合を3分の1減らす。その健康への対策や福祉もすすめる。	地域資源の有するやすさや教育の場としての活用を図る。 ◆推進活動(やすさ・福祉及び教育機能の活用)に取り組む組織数(様式2-4)	(事例)農福連携の取組 2組織	3 やすさや福祉の機会を提供する	やすさや福祉の機会を提供します。	◆推進活動(やすさ・福祉及び教育機能の活用)に取り組む組織数(様式2-4)	(事例)農福連携の取組 2組織
	4 地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供する	【4-7】教育を受けるすべての人が、持続可能な社会をつくるために必要な知識や技術を身につけることができる。そのために、例えば、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活の仕方、人権や男女の平等、平和の力を身につけること、世界市民としての意識、様々な文化の理解などを理解できる教育を施す。	持続可能な地域づくりに必要な知識や技術について、地域住民等の理解を深めるための啓発・普及を図る。 ◆農村環境保全活動に取り組む組織数(様式2-4) (地域住民等の理解を深めるための啓発・普及活動を毎年実施) ※「生物の生息状況の把握」「地域資源の活用・資源循環のための活動」までのいずれかに取り組む組織数	(事例)地元小学校のホタル学習支援の取組 41組織	4 地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供する	地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供します。	持続可能な地域づくりに必要な知識や技術について、地域住民等の理解を深めるための啓発・普及を図る。 ◆農村環境保全活動に取り組む組織数(様式2-4) (地域住民等の理解を深めるための啓発・普及活動を毎年実施) ※「生物の生息状況の把握」「地域資源の活用・資源循環のための活動」までのいずれかに取り組む組織数	(事例)地元小学校のホタル学習支援の取組 41組織
	5 女性の参画により地域や組織の取組の可能性を高める	【5-5】政治や経済や社会のなかで、何かに決めるときに、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりできるようにする。	活動組織の役員や活動に参加する女性の割合を増加させる。 ◆女性役員がいる活動組織数 ※今回は、「女性会」が参加している組織数で代替	15組織	5 女性の参画により地域や組織の取組の可能性を高める	地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供します。	活動組織の役員や活動に参加する女性の割合を増加させる。 ◆女性役員がいる活動組織数 ※今回は、「女性会」が参加している組織数で代替	15組織
	7 持続可能なエネルギーの利用を促進する	【7-2】エネルギーをつくる方法のうち、再生可能エネルギーを使う方法の割合を大きく増やす。	再生可能エネルギーに関する施設を保全する。 ◆資源循環(小水力発電施設の適正管理)を行っている組織数	該当なし	7 持続可能なエネルギーの利用を促進する	住み続けられる地域をつくれます。	再生可能エネルギーに関する施設を保全する。 ◆資源循環(小水力発電施設の適正管理)を行っている組織数	該当なし
実績報告から把握できない指標								

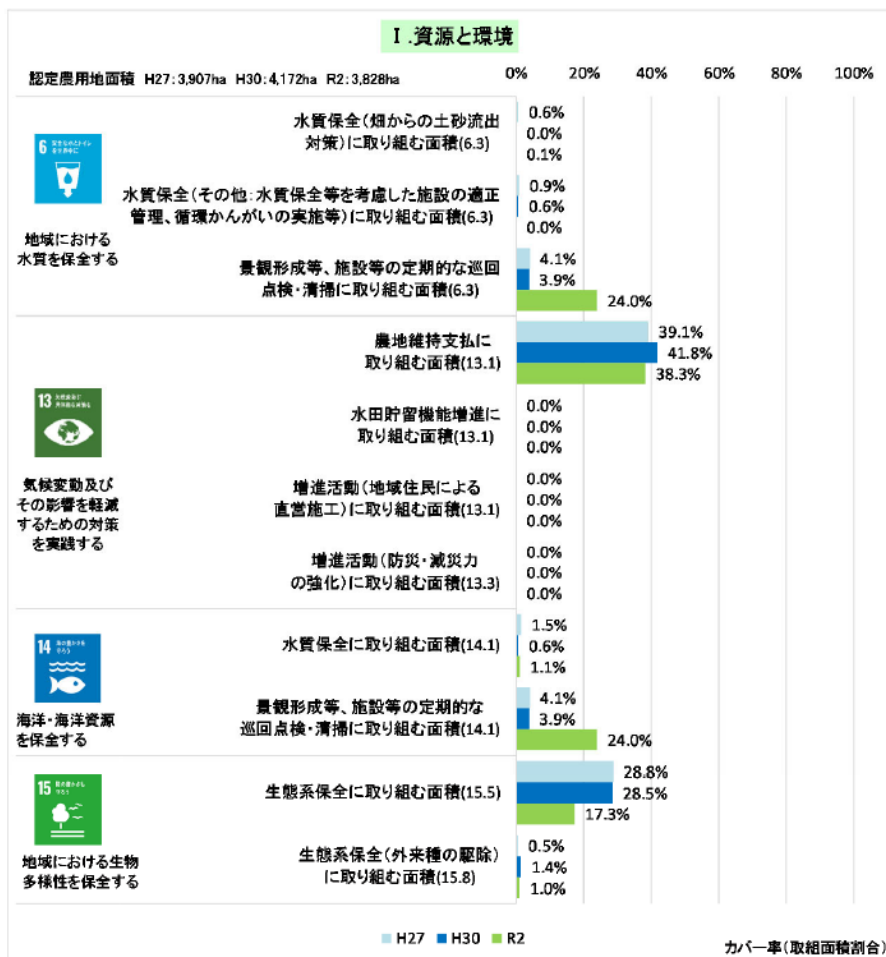
(1) 試行調査(市)

○ 次に、両市の取組状況を経年推移等の視点で評価した活動量評価（各指標値の推移や目標間のバランスと推移など）を提示して、その活用方法等を聞き取った。

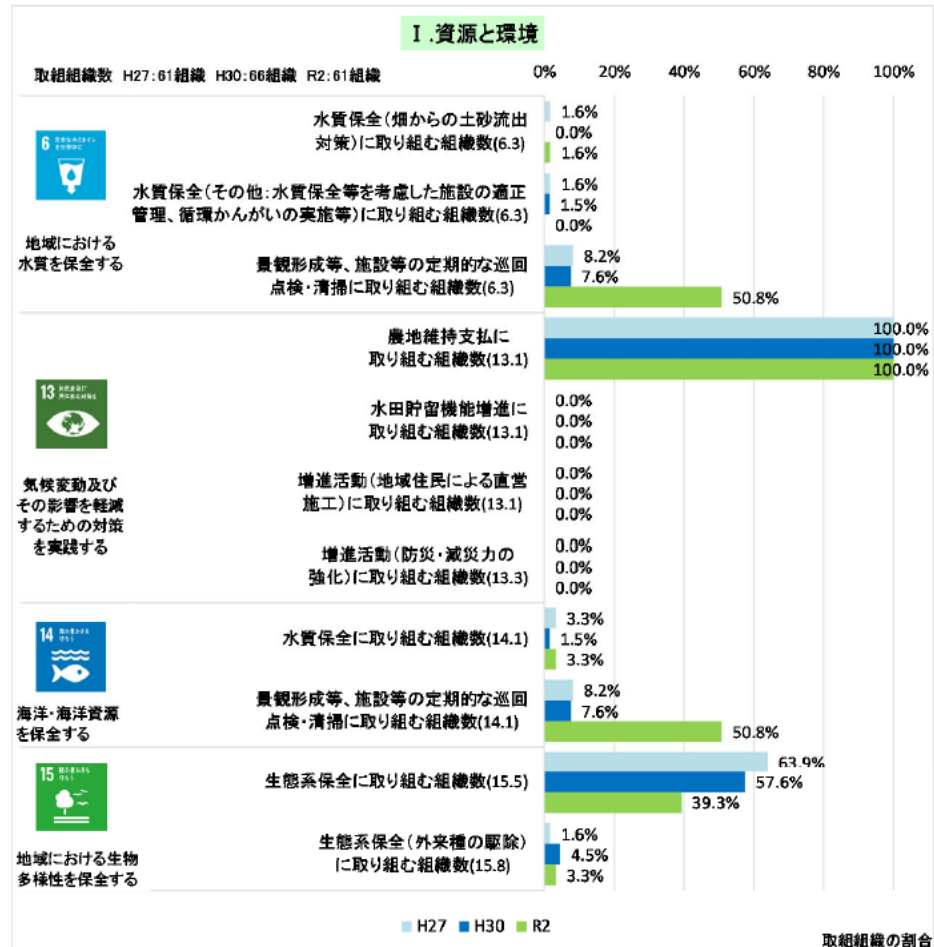
図 活動量評価 Y市の事例(一部抜粋)

各指標値の推移

カバー率(取組面積割合)



取組組織の割合



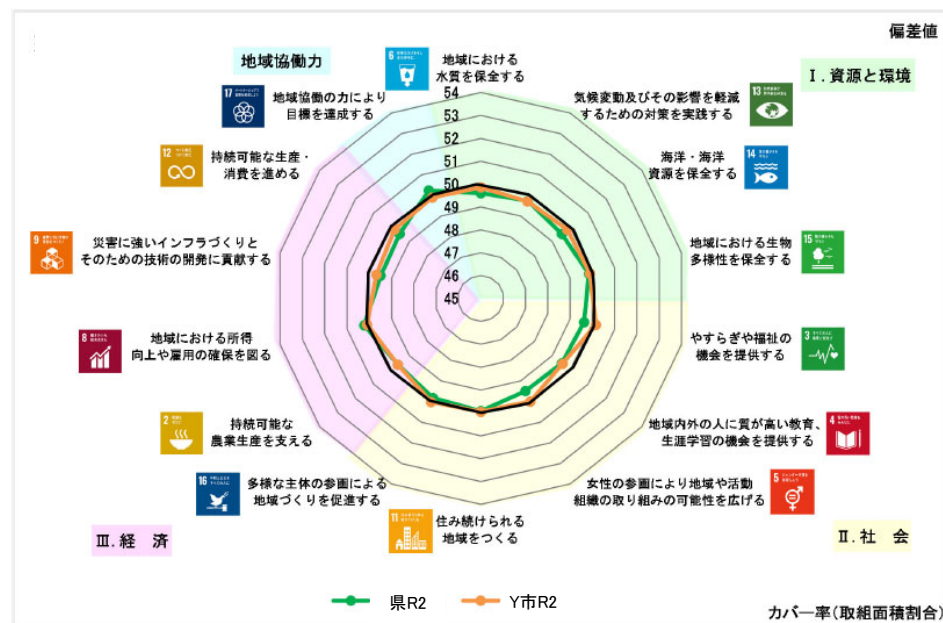
(1) 試行調査(市)

○ 目標間のバランスと推移については、県の活動量評価も提示して市の取組状況と比較できるようにした。

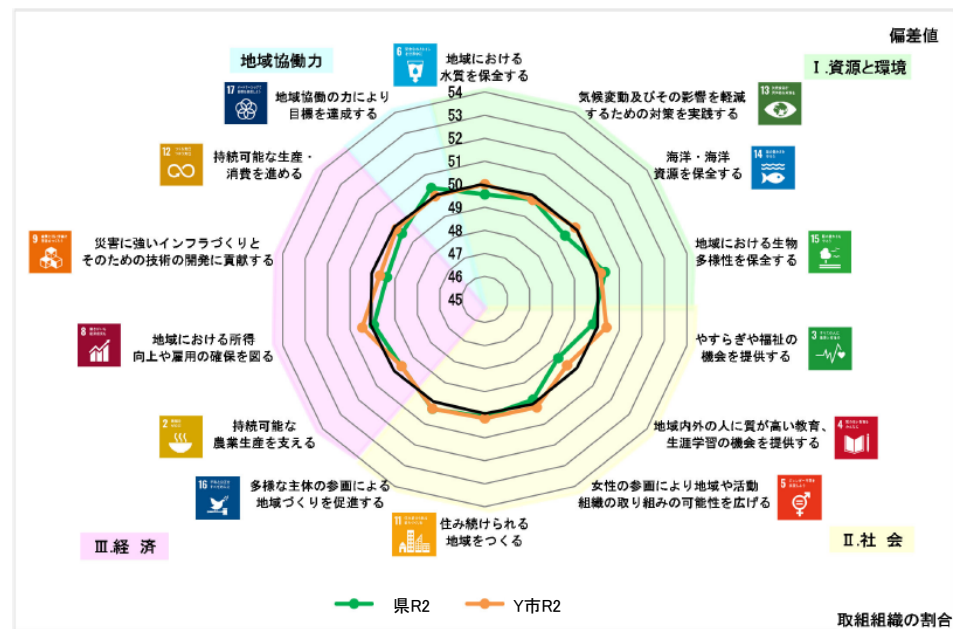
図 活動量評価 Y市の事例(一部抜粋)

目標間のバランスと推移(偏差値による比較:R2)

カバー率(取組面積割合)



取組組織の割合



(1) 試行調査(市)

【調査結果】

- 両市の担当者に多面版SDGsローカル指標や活動量評価等を確認いただき、活用方法等について聞き取った。
- その結果、本交付金の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献に係る一連の整理内容について、両市の担当者とも理解は示しつつも、SDGsが地域に浸透していない、貢献度や達成度に明確な基準がないためどの程度貢献しているのか達成度合が見えるとよい等の回答があった。
- また、実績報告から把握できない指標の把握については、各種報告資料等の確認や活動組織への聞き取り等が必要であり、把握に時間を要する等の回答があった。

(2)補足調査(活動組織)

- 活動組織（両市から各2組織、計4組織）の代表に対して補足調査を実施した。
- 補足調査に当たっては、活動組織の方が簡単にSDGsへの貢献度をチェック可能で、自らの活動状況を振り返ることを期待し、多面的機能支払SDGsアイディアシート（以下、「アイディアシート」）を作成した。（チェックをつけることで目標毎の貢献度（実施状況）を確認できる様式）。
- 補足調査では、活動組織の方にアイディアシートを活用し、SDGsへの貢献が今後の活動を展開していく上で有効かどうかを聞き取った。

図 アイディアシート(一部抜粋)

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、実施報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】地域における水質を保全する。

6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。

☐ 畑からの土砂流出対策に取り組んでいる(水質保全)※

☐ 水質保全等を考慮した施設の適正管理、管理かんがいの実施等に取り組んでいる(水質保全)※

☐ 施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組んでいる(景観形成・生活環境保全)※

☐ 本文交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組んでいる

☐ 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容欄に具体的な活動内容を記載してください)

活動内容:

【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する。

13.1 災害に対する強靱性、対応力を強化する。

☐ 排水路等の草刈りや泥上げ、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)

☐ 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)

☐ 水田の貯留機能向上活動に取り組んでいる(水田貯留機能増進)※

☐ 地域住民による直営施工に取り組んでいる(増進活動)※

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。

☐ 防災・減災力の強化に取り組んでいる(増進活動)※

☐ 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている(啓発・普及活動)

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

【目標14】海洋・海洋資源を保全する。

14.1 海洋ゴミや富栄養化などによる海洋の汚染を防ぐ。

☐ 水質保全活動により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(水質保全)※

☐ 施設等の定期的な巡回点検・清掃により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(景観形成・生活環境保全)※

☐ 水資源農林の保全により、水質浄化や海の環境保全に取り組んでいる(水田貯留機能増進・地下水かん養)

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

【目標15】地域における生物多様性を保全する。

15.5 生物多様性保全のための取組を行う。

☐ 生態系保全活動に取り組んでいる(生態系保全)※

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

15.8 外来種の侵入を防止するとともに、外来種を駆除する取組を行う。

☐ 外来種の駆除に取り組んでいる(生態系保全)※

☐ 生物の生息状況の把握により、外来種の侵入を防止している(生態系保全)

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

地域協働力

【目標17】地域協働の力により目標を達成する。

17.6 国、地方公共団体、関係団体等が連携し、技術や情報の共有化を推進する。

☐ 都道府県、市町村や推進組織への情報提供、情報共有等を積極的に行っている

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

17.17 国、地方公共団体、関係団体、活動組織の連携体制を強化する。

☐ 都道府県、市町村や推進組織との連携を積極的に行っている

☐ 活動組織のNPO法人化により組織体制を強化している※

☐ 土地改良区と連携して活動を行っている(土地改良区が活動組織の構成員である)※

☐ 他の活動組織や団体と連携した活動を行っている

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

②活動組織のSDGs達成に向けた活動の実施状況を確認してみましょう。

SDGs達成に貢献する活動の実施状況(チェックのついた活動数)

	I 資源と環境				II 社会				III 経済				地域協働力	
	目標6	目標13	目標14	目標15	目標4	目標5	目標7	目標11	目標16	目標2	目標8	目標9	目標12	目標17
SDGsの達成へ貢献	2	4	0	2	0	1	2	1	3	1	2	0	1	3
	8				7				6				2	

③SDGsと活動組織の活動の関係について気づいたことをメモしてみてください。

④SDGsの達成への貢献について、あなたの活動組織のPRポイントを教えてください。

⑤今後の活動計画とSDGsについて記載してみましょう。

チェックすると自動で集計される

(2)補足調査(活動組織)

【調査結果】

- 活動組織の代表4名にアイディアシートを確認いただき活用方法について聞き取った。また、追加的に可能な範囲で活動組織の構成員（自治会3名、女性会3名、学校・PTA3名、農業団体1名）からも活用方法について聞き取った。
- その結果、アイディアシートについては、活動が思った以上にSDGsと密接に関係していると気づいた、今後はSDGsを意識しながら活動できるよう検討したいなどと、一定の評価を得た。
- 活動を展開していく上での有効性については、活動のマンネリ化を防ぐ一助になる、活動内容を再点検できるなど有効だと思ふ旨の回答を得たものの、半数以上から地域住民のSDGs自体の理解が不足しているとの回答を得た。
- また、アイディアシートの難易度については、代表3名からは簡単である旨回答を得たが、その他からは、活動が限定的でありどの内容に当てはまるのか分かりにくい、活動をSDGsと結びつけることが想像しにくいことなどから難しかった旨回答を得た。